

ARTIST INTRODUCTION

○村田 のぞみ (招待アーティスト)

鳥を描いた鏡を、室内に設置するインスタレーション。奈良時代の僧である行基を貝塚市まで導いたという、水間寺創建伝説の白鳥に着想を得ている。鏡に描かれた白鳥は、空に向けて設置された鏡のなかで、まるで本当の空を飛んでいるように見える。

○ひととひと

水間門前町の風景とそこに息づく「水」「植物」「記憶」の巡りを、草木染や写真、衣服を通して体感するインスタレーション。水によって染め、水を写し取る表現を通じて、自然と人の関係や文化の循環にも焦点を当てている。植物由来の「青」がもつ興行きや、風・光・空気との対話を感じてください。

○千石 鐘 (せんごくのやかた)

作品のコンセプトは水の生き物（魚やカエルなど）や水龍などの縁起物である。自然や森を想起する特設のジオラマに展示された陶芸の縁起物は、購入・持ち帰ることができる。ユーザーの手によって循環をもたらすことはSDGSのテーマでもある再生を意味し、作品の完成としている。

○HIRAOKA Mao

「水」を媒体として、境界や所有の概念について問直すインスタレーション。水間門前町のまち並みに馴染むように設置されたブロック塀の穴は、所有や空間の曖昧さ、そして関係性の可能性を示している。モニターの中の映像は、水間門前町を流れる川のように絶えず揺れ動き、変化する「水の風景」を内包している。水が出会い、文化が交差する場において「塀の穴から覗くもう一つの水の世界」は、現実と想像、私とあなた、今と未来の間に存在する風景となるだろう。

○城野 真由

微生物や地中の世界に興味を惹かれ、「小さな生き物が大きな世界を築いている」をテーマに制作した作品。土から採れる染料・ベンガラ染めで大きな生態系の循環を表現したインスタレーションは、まさにこのまち、建物、空間ですら「いのち」によって形成されていることに気づかせてくれる。

○MuKu feat. 渠 通 (Kyo Kanae)

移ろう季節の情景や感情を音に乗せ、その瞬間を色彩で描き出す。音と絵が響き合う空間で、聴く人の五感に物語を刻むステージは、心に寄り添う表現で、日常に彩りを届けてくれる。

○井上 保翠 feat.Muku

水間寺を中心に水間門前町が形成された歴史を「書」で表現し、訪れる者が目にすることで、歴史が浮かび、心も安らぐような作品となっている。「MuKu」の生演奏&書道の融合により、人のつながり「縁」を視覚と聴覚に訴えかけるパフォーマンスを行う。

○みずうみ

ふたつの川が合流する水間門前町。『カフェみずうみ』は、その川の水を受け取るころから始まる。その水に映るもうひとりの自分と一緒に、水間寺に伝えられる龍の物語を介して自分の中に眠っていた言葉（キーワード）に出会い、この地から新たな物語への扉が開きます。

○山本 雅士

観覧の御礼、お祈りの気持ちのモチーフ（つぶつぶ）にして、滝の音が聞こえるロケーションで、簡単な瞑想の場を作ります。
展示の楽しみ方
○アートとは？などと難しく考えない ○なんじゃこれ」と見る（撮る）だけでもよし ○瞑想するもよし ○瞑想している隣の人を観察するもよし ○本堂裏の普賢菩薩も是非お参りください

○陽あたりアート部

ゴミを少しでも無くすことに貢献することで社会に恩返しをしたい、という思いから、依頼を受けた仕事で発生する段ボール、壊製品を作るときに出るハギレを活用し、『青』をテーマとした作品を制作。水間寺に由来する「龍」の絵は、作家の独創的な色彩が魅力である。「陽あたり」という2/3の人が障がい者スタッフで構成される会社を支える、すべての方への感謝の贈り物だ。

○つげさん

「水」をテーマにキャラクター「つげさん」と詩を組み合わせた小さな癒しの世界。水は透明で、流れて、形を変えて、すべてを包み込み、潤してくれる存在。「つげさん」は、その水のようにそっと疲れた心に寄り添い、見る人にほっとする安心感や小さな幸せを届け、詩は心にとろりと寄り添ってくれる。心を潤し、気持ちをやさしく満たしてくれる作品。

○東 明 (招待アーティスト)

身体性の拡張や、他者との距離感や関係性を扱った膨らむ服の作品『パラワーク』や、膨らむと円錐形になる体験型作品で自由に遊ぶことができる。すてきな水玉模様の和紙を使って、すてきな紙の帽子をつくるワークショップを開催します。

○城戸 大輝

幼い頃から筆を握り続けてきた作家の感性と技術で、眠っていた私たちに新たな命を吹き込んだ作品。
幾度もの雨から家を守り続けたいぶし瓦、雨露を受け止め風雪に耐えてきたその肌に、一匹のカエルが遊ぶ、雨音を喜び心の赴くままのりくらりと、永い年月と時間のきらめき、相反する二つのものがこの小さな景色の中で、穏やかな存在感を放つ、雨の記憶を刻む瓦の上でカエルの無垢な動きが、見る人の心に安心と自由を届ける

○出原 直武

今となっては危険な陶片やガラス片。それぞれに過去の記憶や想いが宿っていることに気づき、危険な割れ口を漆の技法で繕うことで、造形作品として新たな命を吹き込むことをコンセプトとしている。

○ウエダ ユウヘイ

水間寺の名にある「水」と訪れる人の「祈り」をモチーフに、流れる水のように変化した続ける人々の願いを龍谷山に伝わる龍神伝説と融合させ、可視化する幻想的で力強いアートを切り絵で表現している。

○泉州音頭小柳会

水をテーマに作られた歌詞を泉州温度、河内音頭、江州音頭の歌い手が総勢25名で朝から夕まで歌い込む。水色のポンポンを手にし、アーティストと参加者が一体となって踊りあます。

○Celeste(セレスト)

電車という「移動する空間」に、アートがもつ静けさと、水のように絶えず流れる時間の感覚を重ね合わせることで、「鑑賞」と「移動」がひとつになる新たな体験を生み出す。ギャラリー電車で揺られ、風景が流れる時間のなかで、「観る」と「乗る」の境界がゆるやかに溶けていく感覚を味わってください。

○lealeapono

海を愛するキャンドル作家が表現する、どこかワクワクさせるナチュラルキャンドルを展示。キャンドルを通して自然や地球の豊かさを感じる。もたらされる効果は癒し、また身近なものであるからこそ懐かしさからくる愛着でもある。

○Hibi_photo_by_EMI

『何気ない日々の中に特別な一枚』をコンセプトとしている。撮り溜めてきた水間の日々の中の特別な一枚、水間＝青、四季を写真で表現している。それは誰もが経験する刹那の美しい思い出を連想させるのではないだろうか。

○Itsuki Takumi

月が海を動かすように、私たちの中にも確かに「静かな力」が働いている。Just as the Moon moves the ocean, a quiet force is at work within us too. 作品を見て、自由に感じとって欲しいと願っています。

○boon good

『boon good プーングッド』とは、この建物がかつてまちの文具店だったことを大切に想い、リノベーションした今でも「小さなワクワク」が生まれる場所であってほしい、という願いから名づけられた、シェアアトリエを目指す交流の場。おもちゃ箱のような自由きままな空間で自分の時間を過ごしてみてください。

○FRAANE DESIGN

ペットボトルのキャップを利用して、キーホルダー、アクセサリー等を作るキャップアート。キャップのカラフルな世界。捨てるものが素材となり宝物に見えてきます！またキャップ以外もパッケージ裏面表示を見て材料を知ったり、ゴミの分別にも興味が出たり、いつも「ポイっ」としていたことから少し深く見るきっかけになるアップサイクルワークショップです。

○愚問

貝塚出身の店主が貝塚産の三つ葉を使った抜群に美味しい焼売を販売。手包みの蒸したて小籠包や、青を基調としたドリンクも用意。

参加アーティスト（順不同）

水と水が出会う場所「水間門前町」で、水をテーマにアートが出会う。

2025年9月19日(金)~9月23日(火・祝) 10:00~16:00 (展示内容により異なります)

❖ ●開催場所：水間門前町(古民家、水間寺境内、水間遊園、水間街道、水間観音駅など) ●入場無料

